

ワークショップ実施報告
(概要版)

始良市

株式会社九州経済研究所

< 目 次 >

1. 中学生ワークショップの実施	1
(1) 目的	1
(2) 実施概要	1
(3) 実施方法詳細（マチュア・ソサエティ）	1
(4) 主な施策アイデア	2
(5) アイデアの傾向	3
(6) 当日の写真等	4
2. 校区コミュニティ協議会ワークショップの実施	5
(1) 目的	5
(2) 実施概要	5
(3) 実施方法詳細（まちづくり大喜利ワークショップ）	5
(4) 主な意見	6
(5) 意見の傾向	9
(6) 当日の写真等	9

1. 中学生ワークショップの実施

(1) 目的

「第3次始良市総合計画」の策定にあたり、まちの将来像を実現するための具体的な施策を考えるワークショップを実施する。将来のまちの担い手となる若者の目線で自由な発想を引き出すことで、持続可能で希望の持てる地域の未来像を描くことを目的とする。

あわせて、総合計画へ関与することで、地域への愛着や誇りを育み、「関わり続けたい」「帰ってきたい」といった関係性の形成を目指す。

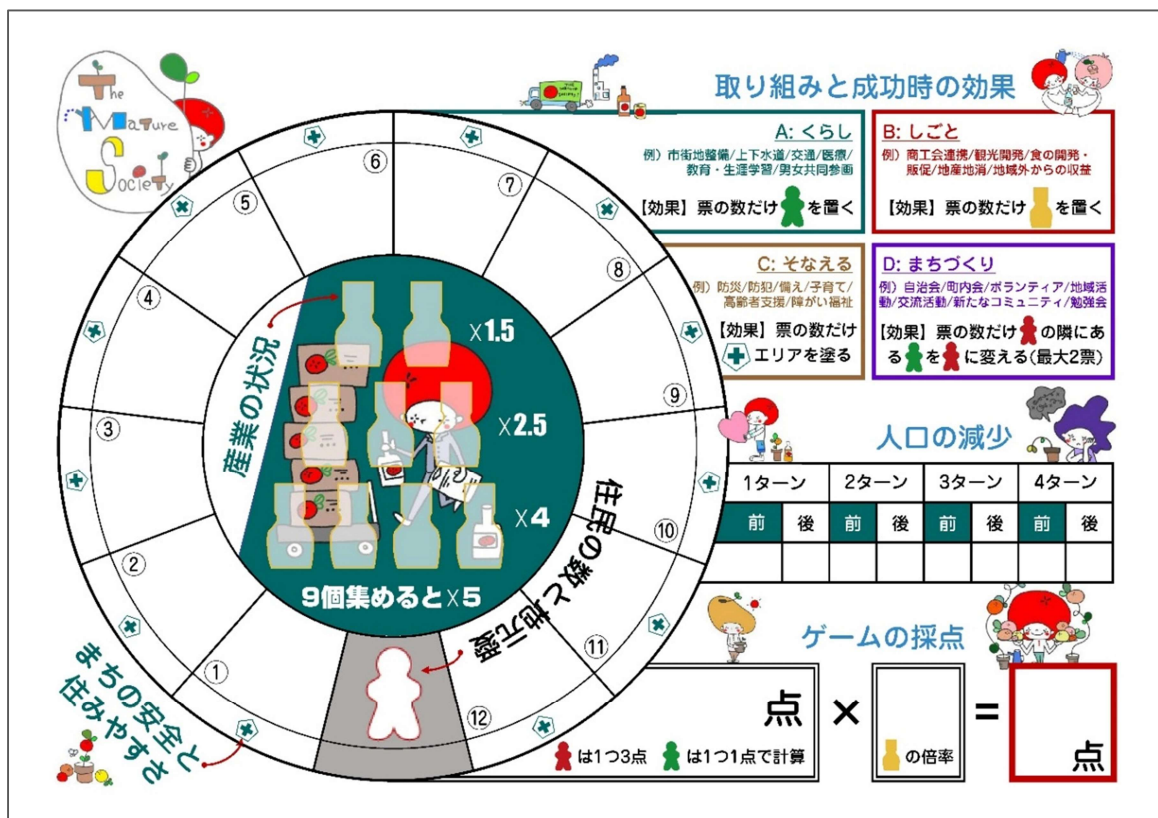
(2) 実施概要

日時	令和8年3月7日(土) 9:00~12:30
場所	始良市始良公民館
対象	始良市内中学1・2年生 17名 (加治木中学校6名、重富中学校3名、帖佐中学校4名、山田中学校2名、蒲生中学校2名)
実施方法	地域活性化のために住民主導でまちづくりアイデアを生み出すボードゲーム「マチュア・ソサエティ」(「成熟社会」の意味)
対応者	企画:(株)九州経済研究所 ファシリテーター:(株)ホライズンワークス

(3) 実施方法詳細(マチュア・ソサエティ)

4人1組または3人1組のグループになり、各人が住民のリーダーの役割でゲームをプレイする。A~Dの中からテーマを決定し、自分のまちで取り組みたい施策を考え、グループのメンバーに発表し、最も良かった施策に投票を行う。得られた得票に応じて、ボードゲームを進め、総合優勝者を決定。最後に、考えた施策をグラフィックレコーディングで可視化し、振り返りを行った。

<使用したゲームシート>



(4) 主な施策アイデア

A：くらし（都市基盤と自然）

- ・道路の整備、交通安全のルールをつくる
- ・18歳までの医療費の免除と高齢者負担額の引き上げ
- ・教育の経済的負担の軽減（給食費の無償化、学校の制服や鞆などの寄付）
- ・道路を整備して、きれいな街並みを宣伝することによって人口増を図る
- ・訪問ケアのよる状態把握。全ての人が健康で楽しく過ごせるまちづくり。
- ・市道の安全調査。高齢者や子どもの未来の事故を減らす。
- ・幼稚園や保育園、こども園に本を配布して、読解力や感受性を身につく機会をつくる。

B：しごと（商工・観光・産業の振興）

- ・食の開発、販促。ここでしか食べられない名物や映えを意識したモノを作って若者を呼び込む。
- ・地産地消、食品ロスの削減
- ・地産地消を活性化させるための食事会
- ・地産地消を促し、外国のモノに頼らない、国産消費を増やす取組
- ・特産品（加治木まんじゅう、タケノコ、くすみなど）の全国ブランド化
- ・食の開発、販促。地元の食材を使った料理を提供。
- ・小中学校の給食で地元産品を使ったメニューを提供したり、児童にメニューを考えてもらったりする。
- ・伝統工芸品や地元産品を地域外に紹介、販売。
- ・農家への寄付金や募金活動、小中学生などを対象とした体験活動。
- ・地域のおすすめ観光ルート等、企業とのタイアップ。限定の特産品開発。
- ・地元のレストラン等の地元食材を使ったメニュー開発、規格外品を利用したフードロスゼロ。
- ・子どもから大人まで楽しく、安全に遊べる、地元の食品を取り扱うテーマパークの建設。
- ・規格外品を安価で売り、物価高に負けない地域をつくる
- ・森林を増やし、エコツーリズムを活性化。森林を観光地へと発展させ、経済的にも自然環境にも優しいまちづくり。

C：そなえる（防災・健康・福祉）

- ・防犯教室、学校での防犯訓練の実施。
- ・妊婦体験。妊婦が暮らしやすいまちに。
- ・空き家撲滅事業。民宿などにして維持・管理。
- ・すべての小中学校の体育館に冷暖房の設置。避難所としても過ごしやすくなる。
- ・親も子どもも楽しめる場所づくり。公民館など、親同士、子ども同士で過ごせる空間。
- ・危険な場所の避難経路の確認。
- ・シングルパパ・ママを支える施設の整備（金銭面のアドバイス、カウンセリングなど）。

- ・学校での避難訓練、ハザードマップの配布。
- ・防災アプリの制作。避難所までの最適・最短ルートや緊急時の連絡先、被災状況の把握等が可能。
- ・防犯ブザーのデザイン会。誰もが使いやすいデザインを考える。
- ・障がいのある方への募金支援。

D：まちづくり（住民主導のまちづくり）

- ・市街地の整備（ゴミ拾い、見回り活動）
- ・郷土について学ぶ勉強会の実施。郷土を知り、守っていくことを考える。
- ・地域の伝統や踊り等の交流活動やボランティア。
- ・地域での運動会の実施。行事の活性化、地域のふれあい機会の醸成。
- ・地域のイベントや清掃活動の実施。きれいで住みやすいまちへ。
- ・海外の方との交流。語学能力と文化を学ぶ。
- ・自分の長所や好きをのばせる場所づくり。学校以外の場所で能力を伸ばせる。優秀な人材育成。
- ・自治会の加入率を増やす。運動会や餅つき大会、クリスマス会等の実施。防犯対策につながる。
- ・地域の絆を深め、伝統を受け継ぐ。自治会でのイベント実施。担い手の確保対策。
- ・ゴミ拾いなどのボランティア、地域の交流イベント、特産品・伝統工芸品開発、子ども食堂。
- ・小中学校の授業中の町内清掃活動の実施。環境問題について考える。
- ・自治会対抗運動会の開催。健康や地域のつながり向上。
- ・勉強会の開催。小中学校の交流を深める。将来的なまちづくりへの協力体制。
- ・自治会で食堂の開催。無償提供。
- ・地域での思い出を語り合う会の開催。年に1回、地域に対する思いを知る機会をつくる。
- ・他学校や他職場との交流会の実施。自分の知らない、持っていない文化を知り、取り入れる。

（5）アイデアの傾向

A：くらし	道路整備、教育に対する経済的負担軽減に対する意見が多くみられた。
B：しごと	地産地消を促す取組や、特産品開発に対する意見が多くみられた。
C：そなえる	防犯・防災対策に関する意見が多くみられた。
D：まちづくり	地区（地域）での活動に対する意見が多く、自治会や地域イベントをいかに活性化させるかに関する意見が多くみられた。

(6) 当日の写真等



ゲームの説明



施策について考える様子



グループでの発表



発表



グラフィックレコーディング



ふりかえり

〈グラフィックレコーディング（一例）〉



2. 校区コミュニティ協議会ワークショップの実施

(1) 目的

始良市では「校区コミュニティ」を中心としたまちづくりが進められており、それぞれが地域の特性に応じた活動を行っているが、共通課題として自治会そのものつながりが希薄化していることがあり、人との結びつきを強固なものにして、校区の行事に連動させていきたいと考えている。協議会長の思い等を把握し、「まちづくり」の方向性等を検討、総合計画に反映するためのワークショップを実施する。

(2) 実施概要

日 時	2026年5月22日（金）14：45～16：45（会場設営：14：00）
場 所	始良市役所
対 象	各校区コミュニティ協議会 会長 16名 欠席：1名 （4人×4グループ）
実施方法	始良市まちづくり大喜利ワークショップ
対 応 者	企画：（株）九州経済研究所 運営：株式会社ホライズンワークス

(3) 実施方法詳細（まちづくり大喜利ワークショップ）

大喜利の「型」を活用し、始良市のまちづくりアイデアをポジティブかつ自然な形で引き出す。「正解はない。面白い＝共感される＝票が入る」という原則のもと、参加者が楽しみながら、本音を語れる場をつくる。ワークショップを通じて、校区の良さや共助の必要性を再認識していただき、総合計画にも活かしていくことを目的として、導入→展開→締めのお題を以下のように設定。

ラウンド	役割	お題	代替候補
①導入	書きやすさ最優先 ハードルを下げる	昔の校区・自治会の暮らしの中で、令和に復活させたら話題になるイベントとは？	公民館に新しい"コーナー"や"名物"を1つだけ作れるなら？
②展開	★重点テーマ主軸 共助・互助	「ありがたいのまち 始良市」として話題になった。校区で“ありがとう”を増やすために始まった、取り組みとは？	小学生が聞いた「この地域、なんか安心する」。その理由、第1位は？
③締め	校区アイデンティティ 熱量を高めて締める	自校区が「住みたい校区ランキング」で県内1位になった。決め手は？	

(4) 主な意見

各グループで出された意見は以下の通りとなっている。グループ討議の上、得票の多かった意見については太字で記載し、討議後の発表内容を追記している。

ラウンド	お題	班	発表内容
①導入	昔の校区・自治会の暮らしの中で、令和に復活させたら話題になるイベントとは？	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地区の<u>フィールド調査、史跡巡り（グリーンツーリズム）</u> ・小中高校生の朝のラジオ体操（夏休み期間） ・薩摩ナンコ大会 ・棒踊り
			<ul style="list-style-type: none"> ・すべて特認校、来てくれる人たちに地域の魅力を見せる
		B	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館で子どもたちのみで作るカレー（天神講？） ・夏祭り「仮装大会」、盆踊り ・共同井戸の使用、青年団の運動会 ・自治会運動会での班別入場行進、仮装行列
			<ul style="list-style-type: none"> ・仮装行列、運動会の検討 ・「仮装」をテーマに盛り上げる方向で意見一致。運動会と連携など、参加型の催し案を継続検討中
		C	<ul style="list-style-type: none"> ・ナンコ ・裏山を何とかする（草、看板） ・ナンコ、綱引き、子ども会と一緒にポニーと馬踊りをして自治会をまわる、子どもにさせるクリスマス会、仮装行列、花火、子ども会復活、グリーンツーリズム ・子ども民生員活動
	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA 中心から本来の子ども会主体に回帰し、企画・運営・実践を子どもが担う 		
		E	<ul style="list-style-type: none"> ・花見 ・相撲大会 ・十五夜のつなひき、男女の相撲大会 ・もぐらうち
			<ul style="list-style-type: none"> ・臥龍梅が病気でやられている。昔はそこでたくさんの人が集まって花見をしていた。 ・花菖蒲、桜の移植

ラウンド	お題	班	発表内容
②展開	「ありがとうのまち 始良市」として話題になった。校区で“ありがとう”を増やすために始まった、取り組みとは？	A	<ul style="list-style-type: none"> ・特認校で学校にきてくれて「ありがとう」、小学生の声聞こえてうれしい「ありがとう」 ・（永原小学校）特認生が通学してくれて「ありがとう」 ・ありがとう券を発行する（900枚貯まったら賞品） ・<u>始良市長、議長、副議長がすべて女性（期待している）</u>
		B	<ul style="list-style-type: none"> ・女性目線で推進していくことを期待している ・1日1回はゴミ拾いをする、地域で広げる ・近隣の支え合い、困ったときの助け合い、老人が生き活きと活躍している ・子どもを地域の宝として大事にする街、子どもの成長に応じて節目節目で祝ってあげる日を増やす ・子どもを育む環境拡大
		C	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちからの要望による学校の裏山の環境整備を行った。 ・子どもたちからの感謝の言葉があった（成功事例として発表） ・<u>交差点でお辞儀をする子ども</u>（車を止めて道路（横断歩道）を渡らせてくれる運転手さんにお辞儀） ・<u>大人が地域で見本になる</u>（自ら率先して何を変える） ・おじき、<u>あいさつ運動</u> ・助け合い活動
			<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動と「ありがとう」の徹底 ・誰に対しても「ありがとう」を伝える実践を広げる（地域の大人が率先して開始し、子ども達に波及させる。）
		E	<ul style="list-style-type: none"> ・女性市長（県内初） ・グラウンドゴルフ、高齢者の健康と友達づくり ・高齢者、子ども達の見守り活動（あいさつ、声掛け） ・<u>ごはんを食べるときに「ありがとう」と言う</u> ・食事の場で「いただきます」の代わりに「ありがとう」を定着させる。 ・日常に根付くと、自然と「ありがとう」が増えるのでは

ラウンド	お題	班	発表内容
③締め	自校区が「住みたい校区ランキング」で県内1位になった。決め手は？	A	<ul style="list-style-type: none"> ・県道を通ってきたら「パツ」と視界がひらけ、田園風景が広がる ・引っ越してきた人が校区全体明るい話題が多い ・空き家がない、自治会巡業に協力的 ・<u>コミュニティ会長が私だったから</u>
			<ul style="list-style-type: none"> ・「自分が会長なら」という当事者意識で、コミュニティを運営する姿勢が大切 ・役員任せにせず、<u>住民一人ひとりが主体的に関わる</u>こと
		B	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会加入率が80%超 ・少子化脱却、明日を担う子どもの育つ環境づくり、若者あふれる街へ ・<u>小さな体験談が今では20回を超える集いに発展している行事がある（強制しない）</u> ・事に対して強制しない
			<ul style="list-style-type: none"> ・昭和20年8月11日の空襲体験を原点とした「平和の集い」をこれまで21回継続して実施している ・小中学生が中心となって参加しており、作文コンクールで最優秀賞を受賞するなど教育にもよい効果を確認している
		C	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと（自然） ・始良市女性目線での政策 ・<u>交通の利便性（アクセス）、ベッドタウン</u> ・錦江小、空襲の話（カノンホール）
E	<ul style="list-style-type: none"> ・人情 ・<u>学校、病院、買い物施設、JR等が近くにある</u> ・伝統行事、芸能（人が集う）、かかし祭り、鬼火焚き ・山林、田んぼ、畑が1ha1,000円で買える 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・生活利便性が高い ・子育てに適した環境、医療アクセスにも強み、伝統芸能に触れられる場が近接している（30分圏内） 		

(5) 意見の傾向

最後にお題に対する種明かしを行い、校区の魅力や10年後の未来に関する意見としてまとめた。それぞれのチームで共通する意見として以下が考えられる。

ラウンド	お題	種明かし	共通する意見まとめ
①導入	昔の校区・自治会の暮らしの中で、令和に復活させたら話題になるイベントとは？	良いものは、今も昔も、良い	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちのやりたい行事をするためにも、企画・運営・実践を子ども自身が担い、<u>組織を復活させる、地域連携を強化させる</u>ことが重要
②展開	「ありがとうのまち始良市」として話題になった。校区で“ありがとう”を増やすために始まった、取り組みとは？	ありがとうは、ゼロからプラスを生む。	<ul style="list-style-type: none"> 「<u>ありがとう</u>」を習慣化させるような働きかけや取り組みを地域主導で行う 地域の<u>大人が率先して模範を示す</u>ことで子ども達にも波及していくことが重要
③締め	自校区が「住みたい校区ランキング」で県内1位になった。決め手は？	気づいたら、表現する	<ul style="list-style-type: none"> 交通利便性や暮らしやすい環境であることが始良市の強み この強みを発信していくことが重要 <u>地域の活動にも自分ごととして主体的に関わる</u>ことが重要

(6) 当日の写真等

